



7/2

講演会や書道教室も行われました

「茂住菁邨書展一言霊の響一」が始まりました

飛騨市美術館企画展「茂住菁邨書展一言霊の響一」が8月21日までの会期で始まりました。

茂住さんは古川町出身。書家として活躍される一方、内閣府辞令専門職として歴代総理大臣や国務大臣の辞令書などの揮ごうにあたられました。新元号「令和」の発表の際、官房長官が掲げた墨書を揮ごうされたことでよく知られています。

今回の展覧会では、茂住さんの41年間にわたる辞令専門職としての活躍や、書家としての足跡を振り返っています。

初日には開会式とテープカットなどが行われ、茂住さんは「今日このオープンを迎えられるのが本当に信じられない思い。

好きというだけで始めた書道が、こんなにたくさんの人に見てもらえるとは。退職まで無事勤めさせていただき、なおかつ書をこうして全て見せる機会を得たということは本当に幸せです」と感謝の言葉を述べられました。



7/3

消防団負担軽減の新要領で実施

飛騨市消防操法大会

消防用の小型動力ポンプを使って消火技術や早さなどを競う飛騨市消防操法大会が、古川小学校グラウンドで開催されました。コロナの影響で開催は3年ぶり。

市内12チームが出場し、1チーム4人の隊員が連携して火に見立てた的に水を当てるタイムを競い、規律や消火技術、安全管理も評価し、総合的に優秀なチームが表彰されました。

大会が団員や家族の負担になっていることから全国的な大会規定の改定があり、今大会は手足の動きをシンクロさせる集合動作などが見直され、過度な訓練の抑制が図られました。

審査の結果、古川方面隊第1分団第1部が優勝しました。

同チーム指揮者の吉田将さんは「5月から週4日の練習を続けてきました。家族の理解や周りのサポートのおかげです。将来、子どもたちが火を消すことではなく、火を出さないことに尽力してほしい」と話されました。

カメラ 特レポ



7/4

おじいちゃん・おばあちゃんからカローリング学ぶ

宮川小児童と地元シニアクラブが交流

地域住民との交流が盛んな宮川小学校で全校児童7人と地元シニアクラブのメンバー16人が参加して「カローリング交流」が開かれました。

この日は、シニアクラブのお年寄りからルールを教えもらい、ミニゲームも楽しみました。児童たちはちょっと力が入ると行き過ぎてしまったり、思うように転がすことができないストーンに手を焼いていましたが、コツがわかると次第に得点枠近くにストーンが集まり、夢中になって楽しんでいました。

6年生の中谷佳暖さんは「ストーンを転がす力加減がむずかしかったけど、いろいろアドバイスしてもらったおかげで相手のストーンを飛ばすこともできるようになり、楽しかった。また交流したいです」と笑顔を見せていました。

カメラ 特レポ



7/6 新 台湾新港郷公所新庁舎の完成式典 庁舎ロビーに飛騨古川展示室を設置

友好都市台湾新港郷公所の新庁舎が完成したことを祝う式典が、オンラインで開催されました。飛騨市からは都竹市長、澤市議会議長を始め、市民ら50人余が参加。新港郷から送られてきたピンク色のTシャツを着てお祝いしました。

新庁舎の1階ロビーには飛騨市の展示室が設置され、飛騨市から寄贈した起し太鼓のわら細工、古川祭の獅子頭、衣装、提灯やつるし飾り、千鳥格子、さるぼぼ、広葉樹の雑貨、飛騨市の地酒の瓶などが展示されました。

林茂盛郷長は「コロナの影響で迎えることができませんでしたが、遠く離れていてもオンラインで一緒にお祝いでき、大変嬉しいです」「コロナが終息し、会える日が来ることを願いつつ、これからも交流が深まることを心から期待しています」と感謝の言葉を述べました。



7/10 記 NPO法人神岡・町づくりネットワーク設立20周年 記念モニュメントや重機展示の完成・披露

「レールマウンテンバイク・ガッタンゴー」を運営するNPO法人神岡・町づくりネットワーク（鈴木進悟理事長）が設立20周年を迎え、同町の旧奥飛騨温泉口駅で記念モニュメントの除幕式を開きました。

モニュメントは、神岡鉱山で鉱石の分別に使われた直径3メートル、重さ3トンの歯車に、坑道の線路とレールマウンテンバイクを組み合わせたものです。このほか福井県旧和泉村の中竜鉱山で使われた削岩機や鉱石運搬車両も展示して「鉱山の町・神岡」をアピールしています。

除幕式には神岡鉱業など地元経済界を始め、市と市議会関係者らが参加。鈴木理事長が感謝の言葉を述べました。都竹市長は「子供たちもこのモニュメントを見て、町の歴史を知りたいという願望が現れるのでは」と祝辞を述べました。



7/15 赤 赤ちゃんとママ、パパのための防災講座 赤ちゃんを抱えての防災について学びました

1歳未満の子をもつ市内在住の家庭や妊婦さんのいる家庭を対象にした「赤ちゃんとママ、パパのための防災講座」が古川町保健センターで行われました。

この日は、アウトドア防災ガイドの、あんどうりすさんを招き、幼い子と家族を守るための暮らしの知恵などを学ぶ講座で、当日は親子11組が参加しました。

あんどうさんは、災害時に暮らしを守る対処法にはアウトドアの知識やグッズが役に立つと説明し、普段からの情報収集や備蓄、危険回避の方法などをアドバイスしました。

古川町の室屋佳夕さんは「初めての子どもで、これまで子どもを抱えての防災を学んだことがなく、対策も考えていませんでした。話を聞いて実際に使える物なども分かり、勉強になりました。紹介されたグッズやスマホアプリを暮らしに取り入れていきたい」と感想を話していました。





7/15

河合小で絵本の読み聞かせとバイオリン演奏

「地域学校協働活動」の一環で住民が披露

河合小学校で、地域の方々による絵本の読み聞かせとバイオリン演奏が行われました。子どもたちの学びや成長を地域全体で支える「地域学校協働活動」の一環で、河合駐在所の吉川浩史・尚美さんご夫妻が、河合町稲越の井関美穂さんのバイオリン演奏に合わせて「イヌと友達だちのバイオリン」(デイヴィッド＝リッチホールド作)を朗読しました。

児童たちは絵本の朗読と、普段見聞きできないバイオリンの生演奏で楽しいひと時を過ごしました。6年生の河渡悠月さんは「音楽が好きで、家に帰るとよくギターを弾きます。バイオリンの生演奏はめったに聴きませんが、旋律がとても美しく心が安らぎました」と笑顔を見せていました。吉川尚美さんは「朗読は大好きで時々読み聞かせをさせてもらっています。バイオリンの音色が美しく、今日は気分が乗ってとても楽しく読めました」と話していました。



7/19

船津盆踊りを学んだ成果を披露しました

神岡民謡保存会の皆さんが指導

総合的な学習の一環として地域の伝統文化について学んでいる神岡小学校の3年生児童が同校体育館で、神岡民謡保存会の皆さんと一緒に盆踊り体験をしました。

6月中旬から3回にわたり、神岡民謡保存会(永田雅人代表)の皆さんから「船津盆踊り」について学習しました。この日は会員の皆さん12人が同校を訪れ、生唄、太鼓や三味線の生演奏などを披露。また、同会の法被や編み笠も用意し、着用する体験も行いました。児童らは、会員の皆さんと一緒に輪をつくり、これまでの成果を披露しました。

踊りを終えた大坂桃矢さんは「最初は難しいと思ったけど、慣れてくると簡単になった。皆で踊ると、どんどん楽しくなりました。せっかく覚えたので、これからも踊りたい」と感想を話しました。



7/30

古川祭をテーマにした踊りを披露

富加町拠点の鳴子踊りチーム半布里

毎年8月に名古屋で開かれる日本最大級の踊りの祭典「にっぽんど真ん中祭り」のファイナルの常連で、加茂郡富加町を拠点に活動する鳴子踊りチーム「半布里(はぶり)」が、まつり広場で、古川祭をテーマにした踊りを披露しました。

チーム結成20周年を迎え、「古川祭」をテーマにした踊りを完成させたことから「古川の皆さんに観てほしい」と、急きよ古川町で披露。大勢の市民の前でメンバー約70人が華麗な衣装を身にまとって音楽に合わせて踊りました。

代表の山田将太さんは「皆さんの心に残り、感動してもらえたら。コロナ禍で元気づけたい」とあいさつされ、「踊りのテーマである飛騨古川の地で、古川祭に関わる方々に踊りを見てもらえることが大変うれしい。古川祭の魅力が伝わるように考え、踊りを作った。どまつりで大賞を取って、古川祭の魅力を全国に発信したい」と意気込んでいました。

